

提案
42

提案
43

提案
44

サメ・エイ類

提案:附属書 II に新たに掲載

* 前回・第16回締約国会議では、商業漁業の対象種を含むサメ・エイ類が附属書 II に掲載され、話題になりました。今回も数種のサメ・エイ類について、それぞれ20カ国以上の国による共同提案が提出されています。

提案
42

クロトガリザメ
Carcharhinus falciformis



©Joi Ito / Creative Commons

背景: 生産性が低い種であり、個体数の減少についても、措置の有効性についても、信頼できるデータが一般的に欠けています。ヒレや身肉への需要があります。

提案
43

オナガザメ属全種
Alopias spp.



©Klaus Stiefel / Creative Commons

背景: 種ごとの動向に関するデータが乏しいものの、ハチワレ（オナガザメの一種）は生産性が低い種であり、資源の減少が示唆されています。ヒレや身肉への需要があります。

提案
44

イトマキエイ属全種
Mobula spp.



©Matthew Paulson / Creative Commons

背景: 種ごとの動向に関するデータが乏しいものの、生産性が低く、個体数の減少が示唆されています。中国での鰓板の需要や地元での身肉の需要があります。

【サメ・エイ類と日本】

- * クロトガリザメおよびオナガザメ属の2014年の日本の主要漁港への水揚げ量はそれぞれ1 t、153 tと、過去に比べ大きく減少しています。その他にも日本船によって混獲され、放流・投棄されていると考えられます。
- * ワシントン条約にはすでに数種のサメ類が掲載されていますが、日本は留保をしています。日本は、「サメのヒレ識別ソフト」の開発に助成をするなど、より良い施行のための支援を行っていますが、留保を行うことで、国際社会に対し「日本はサメの保全に否定的」という印象を与えています。日本には、留保の撤回に向けた前向きな姿勢が求められます。

トラフィックの見解: 提案を**支持**しています

提案
45

提案
46

提案
47

提案
48

他の水産種

決定

附属書 II に掲載する提案



©Robert Delis / WWF
プテラポゴン・カウデルニール

提案
45

ポタモトリゴン・モトロ（淡水エイの一種）
Potamotrygon motoro

トラフィックは提案に**反対**

提案
46

プテラポゴン・カウデルニール（テンジクダイ科）
Pterapogon kauderni

トラフィックは提案を**支持**

提案
47

ホラカントウス属（キンチャクダイ科）の魚
Holacanthus clarionensis

トラフィックは提案に**反対**

提案
48

オウムガイ科 Nautilidae 全種

トラフィックは提案を**支持**

そのほか、チョウザメ：附属書 I・II、ナポレオンフィッシュ（メガネモチノウオ）：附属書 II、トトアバ：附属書 I、ピングガイ：附属書 II に関する議論も行われる予定です。

決定に関する提案

議題
51

ウナギ: *Anguilla* spp.

ヨーロッパウナギの附属書 II への掲載以降、ウナギ属の種の漁獲・取引にどのような変化があり、ウナギ属の保全にはどのような措置が求められるのか、ということに関する調査の実施が提案されています。決定の採択に向けた議論が行われます。（提案国：EU）



©Erling Svensen / WWF

ウナギも宝石サンゴも日本に深い関わりがある種です。トラフィックは、ワシントン条約のより良い施行のため、これらの提案への合意を求めています。

議題
52

宝石サンゴ: 角サンゴ(クロサンゴ)目 Antipatharia

および サンゴ科 Coralliidae

附属書 II 及び III に掲載されている宝石サンゴ: ツノサンゴ目およびサンゴ科に属するクロ、アカ、モモイロサンゴ類の保全状況や管理措置（ワシントン条約の各附属書）の有効性の再評価の実施が提案されています。決定の採択に向けた議論が行われます。（提案国：米国）



©TRAFFIC